

平成30年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	国語	科目（単位数）	国語総合（5）	学年	1	類型	全クラス
学習目標	～国語の基本的な能力の育成～ (1) 言葉についての関心を高め、漢字力・語彙力につける。 (2) 文章を正確に読解する力につける。 (3) 感じたこと、考えたことを表現する力につける。 (4) 話すこと・聞くことを中心としたコミュニケーション能力を高める。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価				
年度初～ 1学期 中間考査	①随想「知の体力」（永田和宏） ②説話『宇治拾遺物語』「児のそら寝」 ③評論「水の東西」（山崎正和） ④漢文入門	①③文章の構成や展開に注意し、筆者の主張を捉えることができる。②文章の登場人物や心情を表現に即して読み味わうことができる。④訓読のきまりを理解することができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D				
1学期中間 ～期末考査	①小説「羅生門」（芥川龍之介） ②随筆『徒然草』「奥山に猫またといふものありて」（兼好法師） ③故事『戦国策』「漁夫之利」 ④随筆『枕草子』「雪のいと高う降りたるを」（清少納言）	①文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わい、小説の主題を考えることができる。②④古文の読み解を通じて、筆者のものの見方・考え方・感じ方を理解することができる。③故事成語の成り立ちと寓話の効果について理解することができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D				
1学期期末 ～2学期 中間考査	①詩（「I was born」など） ②歌物語『伊勢物語』「芥川」、「筒井筒」 ③史伝『十八史略』「管鮑之交」 ④評論「『わらしへ長者』の経済学」（梶井厚志） ⑤故事『戦国策』「狐借虎威」 ⑥評論「時間と自由の関係について」（内山節）	①表現の特徴を考察しながら、詩を読み味わうことができる。②「歌物語」の特徴を掴むことができる。④⑥対比構造を捉えながら、筆者の主張や主要な論点を理解することができる。③⑤語句の意味や句法に留意して、故事成語の成り立ちについて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D				
2学期中間 ～期末考査	①軍記物語『平家物語』「木曾の最期」 ②評論「『間』の感覚」（高階秀爾） ③史伝『十八史略』「鶴口牛後」 ④小説「富岳百景」（太宰治）	①音読を通じて「軍記物語」の特徴を読み味わうことができる。②比較文化論の学習を通じ、日本文化の特徴を捉えることができる。④作品世界を客観的に捉えた上で、自分の言葉で批評をすることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D				
2学期期末 ～3学期 学年末考査	①和歌（「万葉集」他）・短歌・俳句（正岡子規他）・唐詩（「絶句」他） ②評論「動的平衡の回復」（福岡伸一） ③日記『土佐日記』「門出」「帰京」（紀貫之） ④評論「他者を理解するということ」（鷺田清一） ⑤文「雑説」	①表現の特徴を考察しながら、表現される心情や情景、時代や作者によって異なる詩風を味わうことができる。漢詩の鑑賞に必要な基本事項が理解できる。②④具体例の分析を通じて抽象的の見解を理解することができる。③土佐日記執筆の背景や後世への影響について理解することができる。⑤本文の寓意について理解ができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D				
3学期 学年末考査 ～年度末	①俳諧紀行文『奥の細道』「序一漂泊の思ひー」、「旅立ち」 ②表現（ディベート・プレゼンテーション等） ③思想『論語』	①句や文に表れた芭蕉の哲学や心情を読み味わうことができる。②課題解決や相手の理解を得るために、効果的・論理的に話し合ったり発表したりできる。③代表的章句を読み味わい、儒家思想や諸子百家について基本的な知識を身につけることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D				
使用教材 (教科書・副教材)	◎教科書「改訂版 国語総合 現代文編」「改訂版 国語総合 古典編」（数研出版） ◎副教材「新訂 国語図説 四訂版」（京都書房）、「大学入試 頻出漢字2500」（文英堂）、「改訂版 キーワード読解」（Z会）、「解釈のための 必携古典古典文法 三訂版」（啓隆社）、「三訂版 わかる・読める・解けるKey&Point 古文単語330」（いいずな書店）、「基礎から解釈へ 漢文必携」（桐原書店）						
学習方法	予習して授業に備え、授業に積極的に臨み、ノート等は丁寧にまとめ復習や発展学習につなげる。 ※現代文の予習…・黙読する。・音読する。・意味調べ。 ※古典の予習…・音読する。・本文書写。・意味調べ。・現代語訳、書き下し文等。						
評価方法	提出物や観察（発言・発表）による評価を2割、考査による評価を8割で、総合的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。						